

まちづくり懇談会議事録

日 時：令和 3 年 6 月 25 日（金）18：30～20：05

場 所：カルチャープラザ「Eki」

出席者：11 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 懇談

- (1) 栗山赤十字病院の改築（別紙 1 参照）
- (2) 栗山駅南交流拠点施設整備事業（別紙 2 参照）
- (3) 令和 3 年度の主要施策（別紙 3 参照）

4. 自由懇談

5. その他

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築】

町民：ある程度の青写真はできていると思うが、20代、30代の健康な方だけでなく、身体の不自由な方も病院へ行くので、そのような方の意見も設計の時に耳に入れてほしい。それから、トイレのことだが、10年位前にある病院へ行ったときにいいなと思ったトイレがあった。真ん中に手洗いがあり、両端に女性用・男性用トイレ、多目的のようにカーテンで仕切られたようなトイレであり、病院側が患者さんから要望があり作ったと聞いている。車イスに乗って一人で行ったとき、個室では大変。80代の夫婦の場合だが、付き添いで行っても異性のトイレには入れない。真ん中に手洗いがありカーテンで仕切るようなところがあれば連れて行きやすく、紙パンツなど履き替えもできるという話があったので、それほど大きくなくてもよいが、付き添いの方も入れる多目的トイレのような施設があればいいなと思っている。いろいろな人の意見を聞いてほしい。

栗山赤十字病院改築準備室長：設計の段階でいろいろな方々の意見を聞いてほしいということについては、日赤本社での事業承認について、ちょうど昨日承認がおりたので、これから本格的な設計に向けた協議を進めていくことになる。その中で業者からある程度の提案を受けつつ、設計を進めていく形となるので、より広く町民の皆さんの声を吸い上げていきたい。これまで多くいただいた意見もあるので、全てではないが極力多く設計の中に組み入れていきたい。トイレの関係は今後の設計になるが、現在の病院のトイレでは狭いので、それよりはかなり広くなると聞いているし、実際に広くなるか行政としてもしっかり見ていきたい。特に廊下、トイレ、受付などは皆さんの多く利用するところだと思うので、注意深く見ながら設計・建設に向けて協議をしていきたい。

【栗山駅南交流拠点施設整備事業】

質疑なし

【令和3年度の主要施策】

町民：高校の魅力づくりについて、質問ではなく意見として耳を傾けてほしい。茨城県境町という町があり、人口は1万1500人で、ほぼ栗山町と同じだ。今ここに全国から議員や教職員などの視察が相次いでいる。何をしているのかというと、小中学校の英語教育に力を入れており、フィリピン人の英語教師を小中学校に配備している。この自治体のホームページは多言語化されており、英語から中国語、アラブ系言語までも対応し紹介されている。英語教育することで何が変わったかということ、移住者が増えたということだ。先日もテレビを見てみると、コロナ禍により自宅でオンラインでの仕事をするケースが多くなっている。どこにいても仕事ができるのであれば、実家に戻って仕事ができるという話もしていた。境町では英語を学んだ子供たちが町のホームページに参加して、いろいろな出来事を英語で紹介する取り組みをしており、全国から視察に来ており、現実にも人口も増えている。私は栗山高校の魅力づくりは、高校だけ見つめるのではなく、保育所、小学校、中学校も含め全体を通した教育の体制づくりが必要なのではと思う。秋田県では「まちづくりは人づくり」として農業などにも力を入れていたが、一番力を入れたのが教育だ。今、秋田県は大学の全国模試でもトップクラスだ。そういった形の中で「まちづくりは人づくり」、人づくりは教育の高度な整備が必要になってくると思う。栗山高校の魅力づくりに関して否定するのは何もないが、選ばれる栗山町、選ばれる栗山高校を目指していかないといけないのではない

かという思いだ。選ばれる栗山町、魅力ある栗山高校にするため、職員の視察を行い、例えば英検の検査料を町が負担することなどがあっていいのではないか。町の教育全体を通して、幼稚園・保育所からの英語教育、CDを聞かせながら簡単な英語で歌を歌えるようにするなど、そういったところから出発していけば、小学校・中学校・高校に進学した後も役立つ。今の福祉でも外国人労働者が多くなっているので、介護福祉学校でも授業の一環として取り組みを充実していくことができればと普段から思っている。参考にしてほしい。

教育長：秋田県の教育は非常に高い評価を受けており、私たちも2年前には教育委員も含めて、大館市の教育を見学した。最も強く感じたことは、学校全体が地域と一緒に動いていることだ。学校だけで動いているのではなく、地域の人たちと一緒に活動しており、いろいろな取り組みがあったが、子どもたちの自主的な取り組みとしては、ひまわり油を作っていた。当然子どもたちだけで油を搾るわけにはいかないので、まちの方たちが協力し、作った商品はまちの方たちに還元するという取り組みをしていた。また、いろいろな方が学校の中に入り、それぞれの得意な分野で協力するということも行っていた。勉強として、どのようなことが子どもたちに影響を与えているかについて、校長先生や教育長にいろいろな話を聞いた。家に帰って家庭学習をガンガンやっている訳ではないが、学校の中でいろいろなことを教えるなかで、たくさんの人が関わってくれるという点が、他のまちの教育と一番違う。生徒が40名いると、一人の先生が教えるのには限界があるが、そこに町民の方々が入ることで目が届き、分からないと言えない子にも、どうした？と声をかけることができる。これを長年続けてきたことが、今の成果につながっているということを聞いた。栗山町でも真似をしたいと思い、これまでいろいろな取り組みをしている。例えばコロッケを作ってみようという取り組みや、今年からは角田・継立小学校でさつまいもクラブの皆さんの力を借りながらさつまいも栽培を始め、将来は栗山の名物となる商品を作ろうとしている。英語に関する話もあったが、その通りだと思う。栗山町でも、めぐみこども園がめぐみ幼稚園だったころから、他の保育所も含め月に何度か訪問し、英語に対する抵抗感を取り除く取り組みを行っている。もう一歩進めていかなければならないという意見があると思うが、その通りだ。素晴らしいと思ったのは、町の予算などについて子どもたちが英語で話したことがあった。たどたどしくても、英語でチャレンジしたということが素晴らしいと思う。栗山町でもそういったことに少しでも近づけていけるように、英語以外にも、栗山町にはすごい方たちがたくさんいるので、そういった方たちの力も広く借りながらやっていく時代になる。さまざまなご意見があったが、英検の検定補助などは以前から栗山町でも実施している。もっともっとPRして、一般の方も受けられる形にしていければと思う。1つでも2つでも実施していけるよう、頑張っていく。

町民：母校の話だが、これから段々人数が少なくなるから、定員割れになっていく。地元の人は一生涯懸命やっているが、もっと目線を変えて、いろいろな所からの意見ということで、今年同窓会をやる学年があったら、案内の時に一口メモのように意見を書いてもらうのはどうか。栗山から出た方も、栗山高校ってこうだねと思うことがある気がする。私は一口メモに、栗山高校の図書館に図書館司書がいればいいということを書いた。もっといろいろな意見があったと思うが、ちょっと見方を変えてみてはどうかと思う。

教育長：今は栗山高校の魅力づくり委員会ができてから、いろいろな話を聞いた。まだまだいろいろな意見があると思うので、まずは町民の皆さんがどんな高校になればいいと考えているか聞こうと、この委員会を設けてきた。栗山高校はしっかりした同窓会組織を持っていて、90年にわたる長い歴史がある学校。札幌方面やさまざまなところにも栗山高校の同窓会組織があると聞いている。そういった方々に

協力してもらいながら、必ずしも教育委員会だけで考えるのではなく、いろいろなところで意見を聞かせてもらう。ただ全部のことができるというわけではないので、その中で何ができるか、どうやればできるかについて、これから栗山高校に対し提言いただいた内容を前提に考え、できるものから確実にやっていくという姿勢で、教育委員会として話を進めていきたい。

町民：栗山町に農業で移住し 6 年目になる。中学生の娘がいて、中学校への通学バスについて要望がある。現在栗山中学校へは角田・雨煙別・継立方面から通学バスが出ているが、錦からは通学バスが出ていない。夏季は自転車通学で 20 分ほどの距離なのでまったく問題ないが、冬期は自転車に乗れないので、徒歩もしくは送迎となるが、歩くと 1 時間ほどかかる。部活後などは暗いし、荷物も重いので女の子を一人でずっと歩かせるのはちょっと酷かなと思い、車で迎えに行っている。だが中学校は義務教育で、他にも駅周辺や駅北側から通っている生徒もいるので、バスなどが出ればいいよねと保護者同士で話していて、中学校にも要望として出している。冬期だけでも通学バスを出していただけないか。この件について 2 度くりやまキャッチボイスを通じて要望を出しており、2 回とも教育委員会から返事をいただいた。通学バスは台数的に無理ということ、路線などが限られていること、現在町営バス・コミュニティバスとの混乗として、運行の内容を見直し、検討しているということで返事をもらった。この回答を受けて再度キャッチボイスを書いた。もし町営バスを中学生の通学に利用できるのであれば、今の町営バスは停車駅が多くて通学には適していないので、中学校の登校の時間と下校の時間帯に、栗山駅から中学校への直通利用バスを展開してはどうかということを考えた。駅北側、錦方面から中学生が利用できるようにという意味だ。過去に町営バスを錦地区の通学バスとして運行していた時代もあったということで、私は経験がないが、知っている知り合いの方も何人かいて話を聞いている。教育委員会の 2 度目の返答では、令和 4 年度中に運行計画を見直すということで返事をいただいております、令和 3 年なので来年ということになるが、できれば早く見直しを進めていただきたい。近所には小さな子どもたちもいるので、その子どもたちのためにも、みんなが乗れるように改善してほしい。子育てしやすいまちにしたいと栗山町は掲げており、私も引っ越してきてよかったと思っている。未来を担う子どもたちのためにも取り組んでほしい。

教育総括：中学校の通学バス便については、錦地区だけでなく三日月地区などいろいろなところから要望がある。キャッチボイスでの回答にも書いたが、通学バスは基本的に統合などで補助を受け運行していることもあり、現状キャッチボイスで回答している通り、町営バスとの混乗をベースに考えているということで、町営バス担当の建設課といろいろな検討をしている。町営バス・通学バスを含め、令和 4 年度中のバスの改訂ということでアンケートも取りながら、意見を調整している。何度も要望を受けているが、他の地域の意見もあるため、全ての回答が出るかは分からない。以前同じ時間帯に混乗していたこともあるが、路線を走るとどうしても子どもたちが乗るので、高齢者や一般の町民の方が乗れず、苦情を受けるという状態だった。中学校まで運行することについてもルールづくりが必要と思っているので、令和 4 年度に向けて、教育委員会としても中学生や町民とのルール作りをどのようにすれば多くの方に理解してもらえるか、調整できるかを含めて早急に詰めていく。建設課と相談して、混乗を含め検討していき、運行について対応していければと思うので、もう少し時間をいただきたい。

町民：徒歩で 1 時間冬道を歩かなければいけないのか。町の外れに住んでいる人にも平等に利用できるよう、検討してほしい。

【その他】

町民：広報くりやまを見て思ったが、議員の成り手不足という記事が取り上げられていて、第三者委員会の中で協議を重ねている話があった。哲学者のマック・ウェーバーという方の諸書の中に、世界平和と密接な人間の活動における身近な生活まで取り上げるのが政治家とあり、安全保障・外交・経済対策・法律の制定といったことが挙げられている。ゴミ問題・子育て・介護など、現状の問題を取り上げるのが地方自治だと思うが、そういった観点の中において、一番取り上げられているのは、議員報酬が安いという問題。地方自治において見つめなければならない観点とは、生活に直結する問題の中で、女性が果たす役割が大きいと思う。議員の成り手については、町長から第三者委員会の諮問の中で、議会や町政を担う男女共同参画社会を築いていき、女性の意見を多く取り上げ、女性議員も多く誕生させ、女性の構成数を多くしていき、女性の意見を反映できるようにすることが必要なのではないかなと思う。議員報酬のことばかり挙げられているが、議会における男女共同参画社会を実現し、町長が発する諮問委員会の中で、参加した女性が議員になっていくことができればいいと日ごろ感じている。

町長：大変難しい提言だが、私の立場で話をすると、議会定数や報酬の関係については、行政側から意見することはできない。議会改革推進委員会の中、議会という一つの組織の中で決めていくことなので、いろいろな議論がされていると思う。現在、栗山町議会議員は12名で、女性は1名。自治基本条例を作っているが、その中で男女共同参画を重点事項として取り上げており、町も審議会委員やいろいろな協議会の委員については、なるべく男女均等になるように公募するなどの取り組みをしている。男女共同参画はこれからもっと大事になっていく問題ではないかなと思っており、今年4月の機構改革でも、役場の組織の中に男女共同参画を専門に行う主幹を一人つけ、その原案作りなどを行っている最中だ。今の意見にある通り、しっかりやっていかなければならない。今は女性の方が多いし、いろいろな意見を持っている方がいるので、そこを隔たりなく町政に活かせる仕組みを作っていくことが大事なことだと思っているので、進めていきたい。我々地方自治体は町民の皆さんにとって身近な存在であり、日々の生活の中での課題には、先ほども意見があった通学の関係など、いろいろなものがある。町民皆さんの希望・要望なので、全てを実行したい気持ちはある。町の財源は限られているが、ただお金がないからできないというのは私が一番嫌いなことなので、何か工夫してできないかということを含めてみんなで検討していきたい。さらに今年・来年の2カ年で、第7次の町の総合計画を作っていく。8年間の計画を作るが、その時にまちづくり懇談会という大きなレベルではなくて、サークル団体など、細かく色んな方と懇談する機会を設けて意見を吸い上げる。その全ては実行できないが、その中で取捨選択して、基本は緊急性・必要性・町の財源を考えながら計画を組み立てていきたいと思う。行政側が全て決めていくということではなく、町民の皆さんと一緒に、これから8年間の総合計画という、町の一番重要な計画を作っていきたい。